



選考委員 ご紹介

財団選考委員就任にあたって

南 康博 (みなみ やすひろ)

神戸大学大学院医学研究科細胞生理学分野教授

この度、本年度より選考委員を拝命いたしました南 康博です。

令和3年度、4年度に本財団評議員を務めさせていただき、本財団の設立者・初代会長の故松本 悟先生、故澤田善郎前理事長をはじめ関係の皆さまの二分脊椎・水頭症の予防や治療、患者さまとご家族の支援に向けた熱い思いに触れさせていただきました。私自身は基礎医学研究者であり、発生形態形成や組織・器官構築におけるシグナル伝達や炎症やがんの病態シグナル伝達の研究を行っております。本財団の研究助成の概要や選考の視点については、財団創設時から選考委員長を務められた故生田房弘先生がお考えになられた指針が、現選考委員長の山内康雄先生へと脈々と受け継がれており、山内先生や諸先生のご指導を仰ぎながら、中枢神経系奇形、二分脊椎、水頭症などについての申請課題の選考という重要かつ困難な要務に真



摯に携わらせて頂きたいと思っております。

また、本年3月21日に神戸にて開催された本財団研究助成贈呈式・祝賀会に出席する機会を得ました。今回は基礎研究2課題が採択され、その発表を拝聴しましたが、いずれも独自の視点からの興味深い課題でした。特に印象に残ったのは、祝賀会での選考委員長・理事・評議員の方々からの熱いメッセージに、受賞者2名が本研究助成の趣旨を深く理解し、気持ちを新たにすることが確認できたことです。今後尚一層の独自性の高い意欲的な申請があることを期待しております。

第30回（2023年度）研究助成 実施要領



研究課題

- ・中枢神経系奇形一般の原因・予防法に関する研究
- ・水頭症の病態及び治療に関する基礎的・臨床的研究
- ・二分脊椎および関連病態に関する基礎的・臨床的研究

研究領域

- ・基礎研究分野
 - ・臨床研究分野
- 脳神経外科 / 整形外科 / 形成外科 / 皮膚科 / 泌尿器科 / 小児科 / 小児外科 / 産科婦人科 / 神経内科 / 看護科 / 心理科 / 理学・作業・言語療法科等、当該疾患の治療・検査に関わる診療科

研究助成対象部門および助成額

- ・基礎研究部門 数件 / 臨床研究部門 数件
- ・助成額は1課題につき100万円まで。

申請期間

- ・2023年8月1日～同年10月15日（消印有効）

採否の通知

- ・2023年12月末に申請者に書面で通知します。

応募資格

- ・助成金の申請は一般公募にもとづき行います。
- ・申請者（代表研究者）の申請時における年齢が45歳未満であること。
- ・公的補助もしくは他の民間機関からの助成と重複していないこと。
- ・前年度の当財団研究助成金受賞者に限り本年度の応募はご遠慮ください。
- ・助成金による研究完了後、研究結果報告（論文・収支決算書）の提出を行なうこと。

申請方法

- ・申請書は財団所定様式のもので作成のこと（ホームページで7月15日以降ダウンロード可）
- ・申請書のご請求、提出先、およびお問い合わせ等詳細は下記財団事務局までお願いします。

公益財団法人 日本二分脊椎・水頭症研究振興財団
 神戸市須磨区磯馴町 4-1-6 (〒654-0047)
 Tel : 078-739-1993
 Fax : 078-732-7350
 E-mail : jsatoshi@xa2.so-net.ne.jp
 URL : <https://spinabifida-research.com>

2022年度 事業および運営報告



事業

医学研究助成：

- ・大脳皮質形成過程におけるクロマチン立体構造変化の機能解析
藤田 幸（島根大学医学部医学科発生生物学 教授）
- ・脈絡叢に発現する浸透圧応答性キナーゼASK3の脳脊髄液産生制御機構の解析
名黒 功（東京大学大学院薬学系研究科細胞情報学教室 准教授）

出版啓発事業

- ・機関誌 B&C Vol.29 2,400部：
- ・第50回日本小児神経外科学会出席（於：岐阜）
- ・ウェブサイト制作





永井 肇 先生を偲んで

財団創立時から長きにわたり役員をお勤めいただいた永井肇先生（名古屋市立大学名誉教授、名古屋市総合リハビリテーションセンター名誉センター長）が、2023年2月28日ご逝去されました。謹んでお悔やみ申し

あげます。

永井先生におかれましては、財団設立直後の1994年に選考委員にご就任いただいて以来、24年間にわたり切れ目なく選考委員、理事、評議員として財団の活動を支えてくださいました。

永井先生は、1928年のお生まれで、1953年に名古屋大学医学部をご卒業後に当時の第2外科を経て脳神経外科の道に進まれました。1970年に名古屋大学脳神経外科助教授、そして1977年には名古屋市立大学脳神経外科の教授に就任されました。脳神経外科の臨床と研究、教育に優れた業績を残されたのち、1994年のご退官後は新設の名古屋市総合リハビリテーションセンター長として失われた脳神経の機能回復に取り組みられました（2015年まで）。故松本悟前会長とのご関係は、2009年のB&C（16-4）への寄稿文に記されているので引用させていただきます。「たまたま、私は現役時代の初期から、『頭蓋内圧亢進の病態生理』という研究課題に

取り組んでいたもので、私の発表についても、だんだん先生の眼に触れる機会が増えて、特に松本先生のライフワークの一つである『水頭症の病態』との関連について質問されるようになり、その都度、私はきちんとお答えできなくて冷や汗を掻いたものです。……先生は会場での質疑応答が終わった後、休憩時間中にもう一度声をかけに来られて、先程の討論の内容を確かめ『なかなか良い発表だったけれども、この点についてはどうなのか、こうした方がよろしいのではないか』等と助言して頂けたのが、私にとって、大きな励みになり嬉しく思ったことでした。その後もお二人の関係は深まり、松本先生の退官記念講演会の講師の一人を永井先生がお務めになりました。

私の大学院の研究がまさに「水頭症の病態」であったので、1980年代前半の頭蓋内圧研究会で永井先生から何度も本質を突く鋭い質問を受けた記憶があります。今思えば、会場から質問がなく白けた時に助け船を出して下さっていたに違いありません。そのような経緯があり、2008年から財団評議員として永井先生と親しく接する機会をいただけたのは私にとって幸いでした。

永井先生の様々な社会のご貢献の一つに、私どもの財団の活動があったこと、それが松本先生との強い絆に支えられていたことをここに書き記し、長く記憶にとどめたいと思います。

謹んで心よりご冥福をお祈り申し上げます。

会長 長嶋 達也

運営

- ・第23回理事会（2022/5/30）
- ・第12回評議員会（2022/6/14）
- ・内閣府へ令和3年度の事業報告を行う（2022/6/20）
- ・臨時理事会（2022/6/21）
- ・公益財団法人 神戸やまぶき財団 第19回後期社会福祉助成金による事業報告（2022/8/10）
- ・公益財団法人 神戸やまぶき財団 第21回後期社会福祉助成金申請（2022/9/8）
- ・選考委員会規程の変更について草案作成（2022/11/1）
- ・研究助成受付終了、選考委員会審査開始（2022/11/15）
- ・臨時理事会（2022/11/21）
- ・臨時選考委員会（2022/12/9）
- ・第24回理事会（2023/2/28）
- ・第12回選考委員会 選考審査終了（2023/1/20）
- ・公益財団法人 神戸やまぶき財団 第21回後期社会福祉助成金決定（2023/2/9）
- ・臨時理事会（2023/3/21）
- ・臨時評議員会（2023/3/21）
- ・研究助成金贈呈式（2023/3/21）

事務局からのおたより

梅雨とともに最高気温が35℃を超える猛暑日が続いています。皆様、おかわりなくお過ごしでしょうか？

財団は事業年度が変わり、決算報告や役員交代などがあり、いささか慌ただしくしています。機関誌の発行が遅れまして誠に申し訳ありません。もれなく事務局の様子をお伝えしてまいりたいと思いますので、引き続き今年度もよろしくお願ひいたします。

2022（令和3）年度の実績

令和3年度の寄付および会費、基本財産利息による収入は1,562万円、事業費支出1,035万円、管理費支出は470万円でした。

公益法人の「財務」に関する決まり事

財団法人には「一般」と「公益」の区別があります。「公益法人」は、事業の「性質・内容」のほかに、「財務」に関する細かな基準があります。いわゆる財務三基準と呼ばれる「収支相償・公益目的事業比率・遊休財産額保有制度」で、公益法人が公益法人たる所以となるものです。

「収支相償」とは、利益を内部に溜めずに、公益目的事業に充てるべき財源を最大限に活用して、無償あるいは格安でサービスを提供し、受益者を広げようとするもの、要は、寄付や会費などの収入を年度内に使い切ること、翌年度に繰り越しをしたり、貯蓄はできません。

「公益目的事業比率」とは、毎事業年度、公益目的事業費の比率が50%以上になるように、公益目的事業を行わなければなりません。ちなみに、当財団の公益事業費は毎年70%前後です。

「遊休財産の保有制限」とは、公益法人の各事業年度の末日における遊休財産（公益目的事業に限らず、公益目的事業以外のその他の必要な活動に使うことが具体的に定まっていない財産のことをいいます）が、その年度の公益実施費用額を超えてはならないという制限です。

理事会、評議員会の承認を得て4月から翌年3月末の事業実績を6月末までに内閣府に報告することが義務づけられおり、前述の基準をクリアしているかどうか、事業の内容、財務について審査を受けます。当財団も6月16日に提出したところです。一番ストレスフルなシゴ

トであります。

評議員、選考委員就任

南博康先生に巻頭言のお言葉を頂戴しました。先生は6月より財団選考委員をお務めになられます。

村上卓道先生（神戸大学大学院医学研究科長・医学部長、放射線医学分野放射線診断学部門教授）が評議員に就任されました。

第30回研究助成公募

第30回目の研究助成の公募を行います。公募期間は8月1日から10月15日までの約2か月です。公募期間を1か月早めました。詳細は新しいホームページに掲載させていただきます。多くの申請をお待ちしています。

永井肇先生

永井先生は、設立から25年間、役員として財団の運営に携わって下さいました。研究贈呈式には必ず出席してくださいと、受賞者や出席者の胸にじーんとくるスピーチをして下さいました。「僕は何のお役にも立てていないように思うのだけれど、松本先生にお声をかけていただいて、毎年楽しみに参加させてもらっています」と仰っておられました。その場がぱあっと明るく和むような暖かい言葉かけをして下さる先生でした。「事務局の仕事は本当に大変だと思うけれど、よくやっておられるね」と、下々にも労いの言葉をかけて下さり、そのお声のトーンは今も耳に残っています。

えっ！コロナ？！

線状降水帯やゲリラ豪雨、熱中症にコロナ…。気の休まるヒマなく災害が次々襲ってくる昨今です。

新型コロナウイルス感染症は、5月8日から「5類感染症」の位置づけになりました。以来感染者数は報道されなくなりましたので、はっきりした数はわかりませんが、増えていることは確かです。

コロナの感染が始まって3年半、感染せずに逃げきった！と思ったその矢先、感染しました(;v;)…。発熱と頭痛は約72時間続きましたが、おかげさまで後遺症なく仕事に復帰しております。今年度は設立30周年記念の事業として二分脊椎のガイドブック(仮称)を制作します。

今年度も引き続きご指導をお願いいたします。

九十九そのえ (7/14)

Brain and Spinal Cord "B & C" Vol. 30-1

発行日：2023年7月20日 発行者：長嶋 達也 編集者：九十九 そのえ

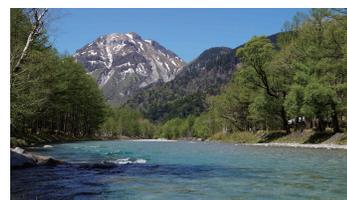
- Contents
- ① 財団選考委員就任にあたって … 南 康博
 - ② 第30回研究助成公募要領 2022年度事業運営報告
 - ③ 永井肇先生を偲んで … 長嶋 達也
 - ④ 事務局からのおたより

公益財団法人 日本二分脊椎・水頭症研究振興財団

〒654-0047 神戸市須磨区磯馴町 4-1-6

Tel：078-739-1993 Fax：078-732-7350

E-mail：jsatoshi@xa2.so-net.ne.jp <https://spinabifida-research.com>



表紙写真：

上高地、梓川と焼岳

山内康雄選考委員長 撮